愛媛電友会会報

第10号
発行人
山崎義己
発行所
松山市南持田町
40番地3
電気通信共済会
四国支部内

目次

○総会記録……編集部……一
○年頭のご挨拶……愛媛電友会長　泉　節太郎……二
○恩給年金改定のあらまし……編集部……三
○随想……琴の爪……松山高橋林二郎……五
わが昆虫記……〃　栗田信雄……六
老人の雑感……三崎清水重太郎……七
何かを持たねば……西条高橋数一……八
○短歌……秋の石鎚……松山藤田基孝……九
○俳句……椋の実句会……松山大野峯生、玉川都夢
山崎夢舟……一〇
○退任のごあいさつ……松山丹生谷保……一一
○愛媛電友会便り……二
○編集後記……山崎生……一三

総会記録

編集部

十一月八日午前十時十分、菊薫る小春のよき日に第七回総会を開催することができましたことを洵に有難く思いますと、松山幹事の明徹な開会宣言に初まり、議長に今年も篠浦幹事にお願いし、総会の議事に入りました。

最初に会長から、新会員の紹介が行われ続いで会長から次のような挨拶がありました。

電友会も本年の新入会員の方々を合せて二〇三名の多きを数え、年毎に発展して参りましたが又年に何人かは物故される会員のあることは、いかに生者必滅のことわりとは言え、悲しみに堪へないことでございます。今年も松本久米市さんが亡くなられ、まことに痛恨極まるものでございます。（本会創立以来の物故された方々に対し、一分間の黙悼を捧げました）

引き続いて会長から電友会の事務所が十二月頃共済会の跡に開設される予定のところ、その跡改装工事の関係で開設の日がまだ決まらない状態ですが、見透しは大体ついております。次ぎに年金改定のことですが、今国会では審議されませんでしたが、臨時又は本国会で可決された場合は直ちに実施できるよう手配されております。（別項ご一読願います。）それから本社で退職された方の会が本年の五月に結成され、日比谷同友会と銘名し、平山温氏を会長に載き、全国の退職者の会の中枢として活動されることになりました。

次いで毛利副会長の会務報告が次のように行われました。

現在の会員数は二〇三名です。恒例によりまして、喜寿の方一名、古稀の方々九名にそれ〳〵記念品を贈りました。会報は一月に新年号、四月に八号、十月に九号と発行いたしました。会議は昨年十月十六日、十一月一日、十一月二日（総会）とその後四十四年九月五日に総会準備その他を十月十六日総会準備委員会、十一月七日役員会を開き、総会附議事項を審議いたしました。その他会員調書を出して頂いたものを電友会に保管し公社の業務に協力するための資料にいたしたいものです。それ

から、このたび共済会に生活援助相談部が出来ました。お手元にお配りいたしましたものでございます。該当の方は共済会の方へお申し出て下さい。なお電友会の活動について、独自の運営をしたい、公社の賛助金は貰ふべきだとか、色々の意見が出ましたが、幹事会でも決論は出ておりません。皆さんのご意見を聞かして下さいませんか。

続いて丹生谷幹事から年間の収支状況を詳細に説明され、有井幹事からその会計監査報告が行われ、全員の拍手を以って承認されました。更に毛利副会長から来年度の予算の報告が行われ全員の拍手を以って承認されました。

それから新役員改選の委員が選出され、別室において委員会が行われている間に羽藤今治市長その他の方々からの祝電の披露がありました。なお会員の中で県政に活躍されている日野県議から次ぎのような挨拶が行われました。

今県政の焦点として、子女の教育ということが取り上げられているのですが、従来の感覚では律し得られない状態になっております。政治が人間性をそ害しているのではないか、政治のありかたについて、反省もし、深慮されなければならないことが多々あることを痛感いたします。それに交通事故の激増は史上最高の数字を示し憂うべき事態におかれています。県はこのたび交通事故相談所を作って、被害者、か害者双方に真に妥当な判断を下すことに努めております。若し萬一こんなことに遭遇された際はご利用を願います。

別室で行われていた役員改選委員会の案が、議長から発表され全員の拍手で承認されました。そこで新会長は承認された事項の幹事指名を行い、新役員が議長席の前に整列し、新会長が新役員一同を代表して新任の挨拶を行いました。

新役員氏名

会長	泉	節太郎
副会長	毛利	正雄
〃	山崎	義己
幹事	赤刎	正
〃	佐々木	光
〃	篠浦	達行
〃	清水	重太郎
〃	上甲	和夫
〃	高橋	数一
幹事	高橋	清秀
〃	玉井	利満
〃	高橋	林太郎
〃	橘加	藤一
〃	友沢	照一
〃	成川	玄一郎
〃	堀内	善一
〃	松山	久春
〃	宮内	宗緑
〃	三好	正恩
〃	水野	輝穂
〃	山下	武夫
〃	吉田	丸蔵
会計監査	河合	博美
〃	百田	勝

附記

毛利副会長の予算報告の承認が行われた後、質疑に移りました。松山の近藤知明さんから会費は今のままでよいのかと質されましたので、議長が、執行部を代表して、会活動を盛んにするためにも、例へば会員の病気見舞とか誤楽施設の設置等、会費の増額の必要もありますが、退職者の全国的な統合組織も近く活動することとなりましょうし、それや、これやを併せ考へまして後日皆さんの方へ更にご相談申し上げたいと思いますと、答えました。

以上で総会を終えて、懇談会の方へ移りました。

年頭のごあいさつ

愛媛電友会会長　泉　節太郎

電友会の皆さん、明けましてお目出度うございます。皆さん、お家族を含めて、元気でよいお年を迎えられましたでしょうか、どうか今年も、皆さんにとって、幸多きよい年でありますよう、お祈り申し上げます。

さて皆さん、一昨年四月、電友会四国連合会が発足したことは、すでにご案内の通りでございますが、もともとこの会の発足の狙いは、こうした地方組織を基盤として、全国的な強力な組織をつくり、それによって電友会設立の趣旨、目的を強力に推進したいという意味を含んでいたことは、これまた、ご承知のことと思います。

ところが、その待望の全国組織が今やようやく胎動をはじめ、近く実現に向って進み出したことを、ここにご報告申し上げます。

と申しますのは、昨年十一月二十五日、日比谷同友会の呼びかけにより、電電退職者団体連絡会が開催されました。この日比谷同友会というのはご承知の方も多いと

思いますが、電電本社の永年勤続退職者の会でありまして、これが昨年八月結成されたに伴って、従来電電千代田会が担当してくれていました前記連絡会の仕事を引継いで担当してくれるようになったのであります。そこで同友会としては、この連絡会の仕事について、将来どういう運営の仕方をしたらよいか、構成団体の意向をききたい、というのが会議招集の目的であったようです。そして私も、電友会四国連合会長として列席致しましたので、その概要をご報告することにより、全国組織胎動の裏付にしたいと存じます。

会議は東京商工会議所ビルにおいて、午前十時から始まりました。先ず同友会会長から、同友会設立並びに連絡会事務引継の経緯についてのお話があった後、退職者団体連絡会の運営を今後どのように推進すべきかについて協議事項の提案がありました。これに対し、いろいろ意見が出ましたが、最も代表的なものとして、次のような発言がありました。

「日比谷同友会が発足したことにより、これで全国の退職者団体が一応揃ったことになる。ついてはこの上は、従来のような連絡会というようなものではなくして、この辺で全国連絡会を結成し、退職者団体の本来の目的貫徹のために強力にして活潑な活動を展開すべきじゃないか」と。

この意見に各出席者とも異議なく賛成であったので、ここで連絡会結成の申し合せを行い、その準備は日比谷同友会が中心となって、他の二、三の団体の協力を得て、会則その他の案をつくるということに決定しました。そして、その発足は、おそくとも本年三月末まで、ということになりましたので、ご承知願います。

なお、ついでながら、同友会から次のような発言がありました。

「日比谷同友会は、その仕事の手始めとして、電電公社総裁に対し、別紙案のような陳情を行いたいと思っているが、若し連絡会としても同様の意向があるならば、その取扱いをどうするかを考えなければならないので、ご意見を承わりたいとその案の内容を見ると、大体次のような意味のものでありました。

一、永年勤続者退職者の逓信病院の利用料金を低減せられたい。

二、全国の保養所を永年勤続退職者にも、在職者同様の条件で解放せられたい。

三、永年勤続退職者に対し、電信電話会館の利用（結婚式場、会議室、宿泊設備等）を承認せられたい。

以上の案に対し、地方代表者から次のような意見が出されました。

「この陳情書には、年金恩給の増額に関する事項が採り上げられていない。本社の退職者は、それぞれ第二の職場への新職の可能な人も多いであろうから、年金恩給についてはそれほど大きな関心をもっておられないかも知れないが、そうした機会に恵まれない地方の退職者は、物価上昇の続く今日、非常に生活上の不安に襲われている。ついては、同友会の採り上げた陳情内容は、もちろんもっともと思われるけれども、それに加えて、年金恩給の増額の件を採り上げられたい。しかもこの問題は、他の問題よりも一層重要な問題であるとの認識が必要である」と。

その他いろいろ意見が出たが、協議の結果結論として次のとおり決定せられました。

一、日比谷同友会の陳情については、同友会として単独に措置する。

二、全国退職者の要望（陳情）については、全国連合会結成後、同連合会の名において行うこととする。その内容は更めて協議するが、年金問題もその時採り上げることとする。

全国連合会の模様は以上の通りでありますが、なお、皆さんが深い関心をもっておられる本年度の年金恩給増額の件は、別項記事の通り、ようやく実現の運びとなりました。

以上ご報告を申し上げ、年頭のごあいさつと致します。

恩給年金改定のあらまし

編集部

まだ正式な通達は職員部の方に来ていないそうですが、解散国会で、その法律が急速可決されましたので、実施通達も近日中に到着すること、思われます（十二月十一日現在で）そのあらましを述べますと、

一、改定の基準

イ　昨年の増率二〇％を四四、八％に改めること。

ロ　年齢加給（六五才以上、二八、五％七〇才以上、三五％）がなくなったこと※六五才以上の人には二八、五％を四四、八％に七〇才以上の人には三五％を四四、八％に改定

二、改定支給に対する年齢制限六五才未満の人は四四年十月から十二月分までは増加額の三分の一に相当する金額を引かれること（新法施行日以前の期間に係る増加額に限る）

三、年金額の改定例

1　明治三九年三月二〇日生　六三才

昭和三九年五月四日退職

退職時俸給六五、八〇〇

支給率　〇、五五二三三三

年金額　四三六、一二三円

区分	四三、一〇改	今回改定
退職時俸給	六五、八〇〇	算出式
二八、	三七、五〇〇	三七、五〇
一二、三一	三七、五〇〇	〇
法律一〇六	六一、四三〇	全上
〃　八二	六七、〇一〇	全上
	（増額）	

今回改定	四四、八〇、
法律	一四三　八六〇円
年金額	五三五、
	九四一円
増加分	九一、
	七九八円

2　明治四三年一月八日生　五九才

昭和四三年四月二七日　退職

退職時俸給　六七、五七五円

年金支給率　〇、四八六

年金額　三九四、七九八円

区分	四三、一〇改	今回改定
退職時俸給	六七、五七五	全上
二八、	三三、	三三、
一二、三一	三〇〇円	三〇〇円
（四三改定）		
法律八二	六一、一三〇	七三、
今回の法律		七七〇円
年金額		四三〇、
増加額		九九一円
		三六、
		一九三円

四三年は支給額の方が改定額より多かったのでそのまま支給され、今回改定されることになりました。

四　年金増額について記憶しておきたいことがら、

退職時の俸給に支給率を乗じたものを最初の年度に支給されていますが、改定される場合は昭和廿八年十二月三十一日に引きもどしこれを基礎にして再計算を行って退職時の假定俸給を算出されますので、殆んどの人が最初の改定の場合には計算された假定俸給より高くなっておることと思われます。そこで増率が二〇％、四四、八％とか言われてもそれは假定俸給を基礎にしたものですが、大体二度目の改定か三度目の改定で改定されるのではないでしょうか。

五、その他参考事項

昭和三十一年十月　法律第一三三号　一二、八〇〇円　ベース

昭和三十三年十月　法律第一二六号　一五、四八三円

昭和三十七年十月　法律第一一六号　二〇、〇〇〇円

昭和四十年十月　法律第八三号　二四、〇〇〇円　（基礎）

昭和四十一年十月　法律第一二四号　（不均衡是正）

昭和四十二年十月　法律第一〇六号　二六、四〇〇円　（一〇％）

昭和四十三年十月　法律第八二号　二八、八〇〇円　（二〇％）

昭和四十四年十月　法律第　号　（四四、八％）　三四、七五二円

この法律の改定を見て判明することは昭和四十年の法律第八三号を基礎にして四十二年に一〇％、四十三年に二〇％、四四年（今回のもの）四四、八％と改定されておりますが、四四年度の実質増加率は、四三年度に支給されたものに対する二〇・六六％増加（144.8÷120＝120.666……）ということであります。（六五才以上の人の分をのぞく）

随想

琴の爪

松山　高橋　林二郎

真山青果原作の「元禄忠臣蔵」がはじめて映画になったのは、戦中の昭和十六年であった。故溝口健二の監督で、スタフは劇団前進座が中心であった。主な配役は河原崎長十郎の大石内蔵の助、嵐芳三郎の浅野内匠頭、中村翫右衛門の富森助右衛門、河原崎国太郎の磯貝十郎左衛門、それに市川右太衛門の甲府宰将綱豊、小杉勇の多門伝八郎といった顔振れであった。憎まれ役の吉良上野介が誰であったか、これは思い出せない。女優陣は河原崎しず江、高峰三枝子、三浦光子などが共演していた。

尾上松之助の昔から、忠臣蔵は数えきれないほど映画化されているが、この芝居のみせ場はなんといっても松の廊下の刃傷と、大詰の吉良邸討入の場であろう。ところがこの「元禄忠臣蔵」には討入の場がなかった。戦局がだんだんむづかしくなっていたころのことで、制作が思うにまかせなかったのであろうか。このため興行的には不振であったようだが、私には印象に残る映画であった。

この映画には、もう一つの思い出がある。といっても映画の内容には関係がない。そのころ私は広島逓信局に勤めていたが、徴兵検査に合格した下から二番目の弟が、入隊前の寸暇を割いて松山から私に会いにきてくれていた。私はこの弟と一緒に八丁堀の映画館で「元禄忠臣蔵」を観たのであった。弟はろくすっぽ訓練も受けずその年の暮には戦地へ送られ、昭和十九年の夏ビルマの奥地で戦病死した。どういう死にかたをしたのかわからう筈もなく、いま思い出しても胸が痛い。

赤穂浪士の一人、磯貝十郎左衛門は廿五才の青年であった。仇討本懐の後彼は大石内蔵之助以下二十数人とともに細川家に預けられた。ある日、彼の許へ若い女性が訪ねてきた。彼女は浪士世話役の堀内伝右衛門の計らいで、前髪立の若衆姿に身を変えて十郎左衛門に逢うことができた。この水も滴るような若衆を、若き日の高峰三枝子が演じていた。

七八年も前になろうか、NHKのテレビに「つづみ」というドラマがあった。これは磯貝十郎左衛門と、彼と反対の立場にある吉良の附人清水一学の二人の男の悲恋がテーマであった。十郎左衛門は鼓の名手であったこれが縁で大身の旗本の息女と知りあいになり、その父親から婿養子に懇望された。が、亡君の仇討を胸に秘めている十郎左衛門は、西国のある大名に仕官すると偽って、この縁談を断った。

磯貝十郎左衛門に愛人があったかどうか、ほんとうは何もわかっていないのである。わかっているのは、彼が切腹したあと遺品を整理していたら、着衣の袂から琴の爪が出たことであった。これは明らかに若い女性の持物であった。けれども彼に愛人があったことは同志の人々も、細川家の世話役の人達も誰一人知っていた者はなかった。十郎左衛門はいっさいを独り胸にたたんで、黙って死んでいった。肥前鍋島藩に伝えられてきた武士道の書「葉がくれ」に「恋の至極は忍ぶ恋」とあるが、至言だと思う。

ところで、先年亡くなられた作家の尾崎士郎さんは、吉良上野介の領地であった三州横須賀村、現在の吉良町の出身であった。尾崎さんは浅野の遺臣、つまり大石以下の四十七士を極度に嫌い、浅野の痩浪人と痛罵してはばからなかった。尾崎さんだけでなく三州横須賀村の人達は、元禄の昔から連綿として旧主吉良上野介に同情し、赤穂浪士を憎んできた。「日本中の芝居小屋でどんなに忠臣蔵がはやっても、この村だけえは一歩だって入れねえぞ」というのが任侠吉良の仁吉を生んだ横須賀村の人達の気慨であった。かって朝日新聞に連載された「新、人国記」の愛知県の巻に、次の一文があった。

三州吉良町の華蔵寺は「忠臣蔵」のかたき役、吉良上野介の菩提寺である。紺青の三河湾を見はるかす丘の上、年ふりた松の木蔭でひっそりと、上野介は眠っている。月明の夜に、ほうほうと鳴くふくろうの声が森にしみ入り、悲運の殿様吉良公の、無念の思いを訴えているようだ。

ゆく春やにくまれながら三百年

鬼城

わが昆虫記

松山　栗田　信雄

学園時代に訓練生とともに、石鎚、高縄、皿ケ嶺、湯山等に登り、また一人であちこちの山や野を歩いて捕った二〇〇頭ほどの蝶の標本ができていた。その後三十年に肝臓とすねの神経痛のため山へ登るたとができなくなり、蝶への関心も薄らいでしまった。そのため標本の保存もなおざりになったため、せっかくの標本が虫にやられ、標本箱に虫針だけが空しくささっていたのは三年前のことである。

ところがことし、友人の紹介で愛大農学部の石原教授の昆虫標本室で標本を見せていただき、その美くしさに心をひかれ、時季は遅れてはいたが、蝶の採集を思いついた。しかし十四年間も山に登らないため足に自信がなく、また健康上の不安もあったので、それらのテストも兼ねて六月十三日に福見山（一〇五四米）に登ってみたが脚力も衰えておらず、すねの痛みもたいしたことなく、またたいした疲れもなかったので、これならいけると、その後高縄杉立谷上山その他城山や石手川土手をあさり歩きまわった。その後九月九日の夜、松山市主催の「五明牧場での秋の虫の声をきく会」に行くバスの中でもと高校の先生で蝶専門の井手先生に紹介され、翌日お宅を訪ねて標本を見せていただき、蝶の生態や棲息地などについてお話を聞き、また、その後現地につれて行っていただくなどして蝶への執念をかきたてられ、今日までに百頭ばかりの標本ができた。

お伽芝居の妖精は背中に蝶の翅をつけて舞台に現れ、ひらひらと飛び舞う姿は優雅とも見えるし、精霊的なものを感じさせるものがあり、この精霊的なところを取り扱った謡曲に観世小次郎作の「胡蝶」がある。

吉野山の僧が都へ来て一条大宮の古宮の階段の下に咲いている美しい梅の花を見ていると、胡蝶の精が現われ「蝶は春から秋にかけていろいろの花に親しむものなのに、梅の花の咲く頃はまだ寒くて生れていないため、その縁のないことが恨めしく成仏ができない。どうかお僧の法華経の読誦によって成仏させてもらいたい」と問いかけ、その僧の法の功力によって成仏し、喜びの舞を舞い歌舞菩薩のような面影を残して霞の中え失せるという、はなやかな、しかし命のはかない蝶の華麗と閑寂とを併せ謡ったものである。

蝶をこのようにみると、殺して標本にするのがかわいそうにさえなるのであるが、山登をするものが山があるから登るというように、蝶を捕るものは蝶がおるから捕るとの心境になりがちなのである。しかしむやみに捕るのではない。生物は環境に支配されるもので、蝶も季節的、地域的異変が起るのである。われわれになじみ深いモンシロチョウにしても、四、五月頃のものは、六、七月頃のものより著しく小さく、八、九月にはまた小型となるものである。また色も一般に春にはあかるく、濶度と気温の高い梅雨から夏にかけては黒みがかり秋には春にも増して鮮明となるものである。去る十日湯山の杉立で捕ったルリタテハのルリ色やアカタテハの朱色はほんとうに透き通るような美しさで、大陽の下に羽を広げているのを見ると、そのままにしておきたいくらいであった。モンシロチョウの白色のいよいよ白くキチョウの黄色のいよいよ黄ろくなるのも秋である。このような変化のおもしろさを求めて捕るのである。

蝶を捕るたのしみは魚を釣るのに似たものがある。大きなもの、珍らしいものを捕ったときのよろこびは大魚を釣、鯛などの高級魚を釣りあげたときと同じであろう。網の中で羽ばたく蝶の羽をいためないように慎重に処理する心境は、ひっかけた魚を逃がすまいと、釣糸を伸ばし、たぐるときと同じであろう。とくに飛んで来る大きな蝶を捕ったときの手ごたえはかくべつであり、これを力学的に衝突とみたとき、なんダインの力が働いているかを知りたいほどである。

蝶採集のたのしみはこればかりではない。どんな所にも四季折々のうつりかわりがあり、いつ歩いてもそのときどきの変化が目をたのしまさしてくれるるのである。それに私は「伊予の古跡」という古い本で行くさきざきのお宮、お寺、古跡、伝説などの予備知識を得ておくので、採集のついでにそれらを訪ねるのは一層たのしいものである。またこうした山登り

などが健康保持にも大きな効果があることはいうまでもない。

さてまえには保存が悪くて虫にやられたので、こんどはなんとかして完全に保存せねばならないと、あれこれ思案していたところ、中村土手の古道具屋で愛大農学部の払い下げの甲虫類標本箱を買った。これは縦三七センチ、横六十センチ、高さ六センチの引き出しが十五あり、市井のアマでこんなりっぱな箱を持っているものはあるまいと自慢の箱である。いまのところそのうちの五つを使っているに過ぎないが、来年のシーズンには井手先生と歩きまわり集めたいと思っている。また先生のお宅で北海道の珍らしい蝶を見たので、日高の静内町にいる娘の家を根拠地にして北海道の蝶を集めこの箱を満たしたいと、今からたのしみにしている次第である。

（十月二十五日記）

老人の雑感

（昭和四四、一一月、一二日）

三崎　清水　重太郎

いつまでも若くありたいと思っていました私も今年の八月二十五日で満六十八才になりました。

三崎町老人クラブ睦会に入会しておりまして、会員の皆様と共に現代の老人として恥しくないように教養の向上につとめ少しでも地域社会のためになる老人になりたいと努力をつづけております。

愛媛県と三崎町の共催で九月二十六日二十七日の二日間三崎町農協農事センターに於て第八回愛媛老人大学三崎教室が開設されました。

同大学の目的は老人クラブ員が気楽に一堂に会し集団の場を通じて教養の向上に新しい世代との調和を図ることの必要性を体得する機会を与え、自らの健康の増進を図らうとするものであります。

参加者三崎町、八幡浜市、保内町、伊方町瀬戸町、三瓶町等の老人クラブ員の方々で会計三六四名でありました。

私も参加者の一人として他の老人の方々と共に熱心に各講師の講義を受講致しました。

第一日目法律、健康管理、交通安全の講座

第二日目社会時事、精神修養、趣味、娯楽

昼食時には婦人会及びクラブ員のレクリエーションがありまして笑いと拍手の中に盛大を極めて二日間の日程を終了致しました。

終了に当って愛媛老人大学長、愛媛県知事久松定武氏から参加者に夫々修了証書が授与されました。

私は昭和三五年五月宇和電報電話局長を最後として逓信省勤務から通算四十有餘年日本電信電話公社を定年で退職して故郷の三崎町に帰って父の後を受けて柑橘作りに従事してから早いもので十年の歳月が流れました。

私の長男岩幸は今年の公社の異動で浜松無線中継所長から本社マイクロ無線部調査員を命ぜられて本社勤務致しております。

人生五十年といわれたことは昔のことで今の人間の寿命は伸びて来ております。

昭和六十年になると我が国の人口は一億二千万になるといわれております。

その中に六十五才以上の老人が二割をしめるとのことであります。

学校にいっている者が二割、働いている者六割（この内半分は女の人）になるとのことであります。

それで老人のしめる分野が広くなって来るので国でも老人対策が今後重要な社会問題としてとりくむことになるそうであります。

全国に百才以上の老人が三三一人愛媛県に三人おられるそうです。

世界で一番長生きしている人百六十五才で現在もお元気とのことであります。

中古老人の労働は年若労働にかえることが出来ないので問題があります。それで年若労働を補うために婦人の労働が取り入れられて期待されているようであります。

将来は老れい人口が増えると就労問題が重要になって来ると思はれます。

働くことは老人の健康保持上大切なことであります。

現在大都市に人材銀行がありまず又厚生省でも就労あっせん所があって老人の就労をあっせんしています。このあっせん所を全国に五十五ケ所設けるやに聞いております。

我が愛媛電友会においても会員の就労希望調書をとって四国電気

通信局に提出してあっせんしていただいていることは結構なことで一人でも多く就労出来るようお願い致します。

今後老人は一層体を大切にして、明るく夢と希望をもって余生を送りたいものであります。

老人の心の持方がまた大切と思いますので次のことを心掛け実行して与えられた寿命を全うしたいと思います。

1　身なりを整えること。
2　いい姿勢でいい歩調で歩くこと。
3　頭を使って絶えず勉強すること。
4　いくつになっても仕事はやめてはならないこと。

六十才を過ぎて農業のような仕事は一日に四時間か五時間が適当でないかと思はれます。

5　何か趣味をもつこと。
6　年をとったら友達を増さねばならないこと。
7　食べるものに気をつけること。

老人は健康であることが一番倖せであると思います。

平素健康に恵まれていた私が昨年十月末三崎町の山下医師に健康診断をお願いしたところ内科的には異状はありませんが尿検査の結果糖がでておりましたので山下医師から糖尿病に権威ある八幡浜市立総合病院内科吉田医師に紹介してもらって十月末吉田医師に細密検査をお願いしたら糖尿病と診断されました。

それで昨年の第七回愛媛電友会総会に出席出来ず残念でありました。

それから一年医師の指示にしたがって食事療法と茶の服用をつづけ養生致しました。

昨年十月末の体重が八六キログラムありましたが養生の結果現在六六キログラムに減りました。

体の調子もよく現在糖はでておりませんが引きつづき食事療法をつづけております。

糖尿病食事療法の原則

1　適正なカロリー
2　糖質量の制限
3　糖質、たんぱく質、脂質のバランス、
4　ビタミンおよびミネラルの適正な補給などであります。

この食の療法で砂糖菓子、酒、ビール、などとめられましたので初のうちは非常に困難でありました。

この病気には食事療法が一番大切であることを医師からきかされ自分の健康をとりもどすために最も大切なこと敢覚悟を新にして頑張って養生致しました。

現在ではこの不自由にもなれて余生を大切に柑橘園の見廻り、又軽い農園作業等もやっております。

今年の十一月七日八日の愛媛電友会役員会及び第七回愛媛電友会総会に出席してお元気な会員の皆様にお目にかかることが出来まして非常にうれしゆうございました。

終に愛媛電友会の益々発展と会員の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

即吟五句　清水　岬峰

電友会　八つになりて　菊薫る
散りしける　銀杏黄葉に　鳩一羽
めぐり来し　湯釜薬師や　秋深し
一茶句碑　堀を隔てて　柘紅葉
六部尊　茶の花つづく　坂道を

何かを持たねば

西条　高橋　数一

広い屋敷で手入れの行届いた植込みの前庭があり、敷き詰めた小石を踏んで行くと堂々とした構えの家が、来訪者を威圧するふうに建っている。ところが、玄関の硝子戸を閉めているのはともかく、その外側の雨戸を八分方まで閉め寄せているのだ。盛夏の白昼にしては合点し難いところで、何だか来訪者を拒否する姿勢のようでもある。横手の開かれて日除けのすだれが垂れている縁側から声をかけると、裏の方から外を回って出て来たのは、頭髪は衰えているが赤ら顔の肥った老人だ。私がいかなる客であるかは判っていないにしても、戸外で応対しようとする作法はおかしいが、それを別段失礼だとも思っていないらしい。

そこで、電話ケーブル架設のため、ご所有の土地に電柱を一本建てさせていただきたい旨懇請すると、言下に拒絶された。しかし、

重要な市内幹線ケーブル架渉のための割込柱なので、地域社会の進歩発展に寄与する意味において、まげてご承諾に与りたいというと、顔面いっぱいに怒気を漲らせて、厭だといえば厭だ、そんなことは聞きたくない、と私を怒鳴りつけたのであった。

この老人の虫の居所がきょうは余程悪いのだろうと、一礼して一先ず引き退ったもののむろん諦めた訳ではない。そこで第二段の折衝方策を練らねばならないが、それには先ず対象者の人物について知る必要がある。かなり手を尽して調べた結果は次のようであった。

高等学校で多年英語の教師をしていたが、数年前に定年退職をした。町内切っての旧家で裕福である。しかし町内の世話役などしたことがない。自治会長を頼まれたとき医師の診断書を貰って来て示し、このとおりの健康状態だから引受けられないと逃げたが、自家の畑仕事などはせっせとしていた。近くの工場から流れてくる煙が公害をもたらすとて、工場移転の要求運動などもしていたが、そのような私益確保に属することは精力的にする。町裏に大きな団地ができたので、県道への最短距離の直通道路を必要とし、屋敷の前にある畑地のうち四十五坪の割愛を要請するため、団地中央部の九十坪を代替地として交渉したが、いかなる有志が行っても承諾しなかった。公共的協力意志とか社会的連帯感とかは持っていない。従って政治や社会に対する関心度もまったく低い。英語教師だったが英文学とか英国の歴史、政治、哲学等について何の興味も抱いていないばかりか、元来読書家なんかではない。書画はもちろん囲碁、将棋、旅行等の趣味を有せず、道楽というべきものはなんにもない。親戚も少く、交際範囲も狭く、心を許し合った友人もない——というのである。

これでは殆ど取り付くしまがない。政治や社会に対する関心をもっている人なら、時事を語り合うということもできよう。趣味道楽のある人なら、その方面から近づくことも可能であろう。けれどもそうした途すら鎖されているのである。あの人のいうことならひょっと聴くかも知れぬと教えられて、説得を依頼してみた向もあったが、その人にも辞を尽してことわられたのであった。

後日、施設部嘱託のMさんが私に代って行ってくれたが、どうでしたかと訊いたら「どうにもこうにも、まるで遍路乞食が門に立ったかのようにあしらわれました」ということであった。

世の中にはこうした人間もいるのである。用地を承諾してくれなかったことについては、もはや別段恨みにも思っていないが、私にはその人がたいへん気の毒に考えられるのである。気の毒さの中にはかなりの侮蔑感がこもっていることも否定できない。ということは、そこに人間存在の価値を見出すことができないからである。何のために生きて来、そして生きているのか。物質的には恵まれていて、貧窮への恐怖なくして過ごし得るということは一応結構ではあるが、その人間自身の貧しさはどうであろうか。人間としてこの世に存在するからには、人間として持っているものがなければならない。それによって自然に触れ、人に触れ、社会に触れて、然るべき響きを発しなければならない。言い換えれば、人間として持つところがなかったら、人生を人生として味わい得ないのだ。

いかに立派な家に住み、金には何の不自由を覚えずとも、そこにいる肝腎の本人が、そのように貧弱では不幸というのほかなく、携えた鉄鉢を誰一の財物として、遍路行乞をもって凌いだ特異の俳人種田山頭火に及ばざること、まことに遠きものありといわざるを得ない。

（一二・六）

短歌

秋の石鎚

松山　藤田　基孝

石槌は　幾重の山の　上に出で
淡くかすみて　朝の日に照る

ブナ紅葉　あかるきみちに
おのづから　吾が足軽く
友にしたがふ

くれないの　もみじ見て立つ
吾を置き　若き友らは
足早にのぼる

試しぐさり　のぼり尽きたる
岩の上に　胸をひらきて
息をつきをり

頭より　したたる汗に
おぼれつつ　手ぬぐひ撚りて
鉢巻となす

ヒメシャラに　向ひて憩ふ
滑らなる　赤き木肌を
撫づるなどして

この峠に　六十年目の　花咲きて
おのづから枯れし
笹に逢ひたり

高原の　広き平に　枯れて伏す
笹の白骨　ふみてのぼりぬ

白き骨と　なりて枯れ立つ
石槌の　シコクシラベに
吹く霧もなし

紅葉する　ブナを見おろす
高原に　シコクシラベは
骨のごとく立つ

ようやくに　辿りつきたる
山小屋に　買ひしちから水を
吾はのみたり

そそり立つ　巌見上げて
ゐたりしが　心をきめて
鎖をいだく

澄む空に　岩秀突き立つ　石槌の
いただきに迫る　小さきわれは

いくたびも　「下を見るな」と
いましめられ石槌山の
鎖にすがる

つかみ居る　鎖にかかる
吾が生命　この手はなてば
否も応もなし

二億年の　齢かさねし　石槌の
山も歩きぬ　願ひかなひて

千九百八十一メートルの　頂に
のぼりて汗に　おぼれてゐたり

美しき　かへでもみじに
覆はれて　高き天狗岳は
目の前に見ゆ

足弱き　われはここより
下るべし　ゆけぬ天狗岳に
心のこして

雲の海　見おろす山の　岩の上
ひとりいこえば　仙人のごとし

行く水は　垂れたる葉を
流しゆく　山の厠に
風立ちにけり

山の間の　暮るるに早き　道下る
老たる足の　つまづきながら

杉の秀の　真上に落ちて
ゆくごとく　ロープウエイに
山をおりたり

俳句

松山　大野　峯生

返り花　ありとて呼べり
川越しに

返り花に　近づき跨ぐ
にわたづみ

枯園に　青く旺んに
ばくちの木

この園や　あの日のごとく
返り花

柿密柑　濡らす露店の
雨ぬくし

松山　玉川　都夢

枯れるもの　あまりに多し
万葉園

柘紅葉　散りしくそこに
茶筌塔

散り惜しむ　桜紅葉に
烈士の碑

万葉の　園を濡らして
冬の雨

その色の　何か知らねど
梅蕾む

松山　山崎　夢舟

冬紅葉　雨の護国の
宮居抱く

山茶花や　故郷ゆかりの
オリーブ荘

この雨に　来ての果報ぞ
返り花

返り花　こよなき雨の
万葉園

護国の宮　師走の雨に
鎮もれる

椋の実句会のご案内

去る十二月の七日に松山在住の退職者の方々やその方々と日頃懇意に句作を続けられた方々が、寄り集って同好者の会を作られました。その名称も雅趣があり語呂も美しく会員の方々も皆、句を楽しみ、浄らかな日々を送っておられます。大野峯生さんに誘われて私も会員の一人に加えて頂きました。この句は発会式の句座に各自の投句したものを掲げさせて貰いました。同好の方、有志の方は是非おいで下さいませんか、そしてお導びき願いたいものですが——

退任のごあいさつ

松山　丹生谷　保

わたくしは、このたびの総会役員改選で、幹事を退任させていただくことになりました。

つきましては、貴重な本紙上をおかりして、在任中、いろいろとご厚情、ご支援を賜わった方々に対しまして一言、お礼の言葉を申しのべたいと思うのでございます。

わたくしは、電電公社停年退職の昭和四十年の、四月に電通共済会四国支部へ再就職しましたが、支部の総務課長としての本務の、かたわら愛媛電友会の仕事も、おおせっかり、じらい五年間、何とか会のため、び力を捧げて参りました。

その間、愛媛電気通信部からの要請もあり、また、会自体としても自主運営の気運も、たかまり通信部からの愛媛電友会事務の全面引き取り。また、全国公社退職者団体連合会発足にともなう電友会四国連合会の設立それに愛媛電友会創立五周年の記念行事をともなう五回にわたる総会開催に人知れない、かなりの時間や心づかいがありましたが、これらのことも各方面のご理解ご支援を得て、どうにかつとめを果たすことができました。

殊に、わたくしは会計を、おあづかりしていましたので会員二〇〇〇名の貴重なしかも余り豊かではない会費で、幹事会、役員会などの開催による雑費の支出、あるいわ、印刷、郵送費等の支出などについては細かい気をくばったつもりであります。

毎回のことながら、総会を控えて、年度決算書が、会計監査にパスし、役員会で、決算書、予算書が承認され総会で会員に配付するこれらの印刷物が、できあがった時これで今年度の総会も無事に迎えられ、会場で親しい懐しい会友の方々とお合いできるという安心感が湧くのも会計をあずかる者の、特に味う気持ではなかろうかと思うのであります。

事務所あて『元気でやっているぞ』との電話やお便り、また反対に、会員や、その家族のご不幸の通知を受ける時、淋しい暗い気持を抱いてお葬式への参列など、よろこびも悲しみも常に身近かに感じられた五年間の年月、これらのことは私の愛媛電友会に対する愛着の思い出として深く長く私の心に残ることでありましょう。

終りにのぞみまして、会報編集に格別のお力添えをくださった山崎義己氏および昨年四月から郵便物の発送、幹事会役員会総会などの準備や後仕末に惜しみないご尽力をせられ、常に私のよき相談役、援助者としてご激励くださった宮内宗禄氏のご両氏に対し、愛媛電友会を支える貴重な蔭の力として私は心からの敬意と感謝の意を表するものでございます。

愛媛電友会便り

……役員改選……

去る十一月八日行なわれた愛媛電友会総会での役員改選の結果、別記（総会記事）のとおり新役員が決定しました。

再任の方、新任の方、共々、今後よろしくおねがいいたします。

また、永らくに互り会発展のため多大のご尽力をいただいた福田福松、横山竹義、有井八郎、丹生谷保の各氏には今回退任せられましたが、ここに在任中のご尽力に対し厚くお礼を申し上げます。

……有料老人ホーム資料……

電電千代田会事務局には参考用として全国の有料老人ホーム（簡易保険、郵便年金福祉事業団体関係を除く。）四八か所の資料があります。

（電電東京誌千代田会だよりから）

……日比谷同友会の発足……

電電公社を卒業した者の団体は各通信局管内にあるが、その全国的な連絡は東通の千代田会と関通の旧友会が窓口となっていたが、このたび本社卒業者によって日比谷同友会が平山温氏を会長として発足した。

これによって、今後、全国的な連絡の窓口は日比谷同友会となる見込みです。

……電友会事務所のご案内……

別記のとおりご案内いたしましたが、なお九号会報でお知らせのとおり、共済会四国支部内に公社退職者のため生活相談室も設置されておりますので、お気軽にお立

寄りくださるようお待ち申し上げます。

……会費の納入について……

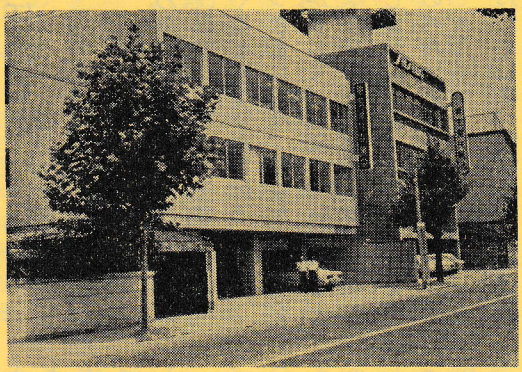
会計処理上、会費未納の方はなるべく早く納入下さるよう特にお願い申します。

納入はどの方法でも結構ですが、振替口座徳島三六四〇番、愛媛電友会をご利用すれば便利かと存じます。

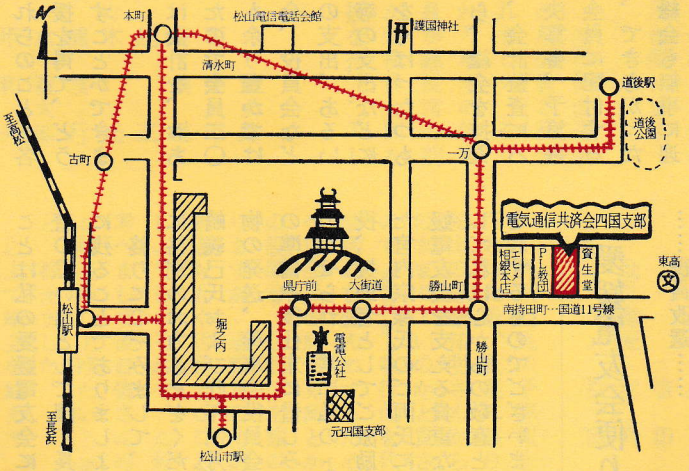
愛媛電友会事務所のご案内

場所　愛媛県松山市南持田町四〇番地三
電気通信共済会四国支部総務課内
電話松山（〇八九九）21—九五三一代

電気通信共済会四国支部



付近の見取図



編集後記

山崎生

皆さん、明けましてお目出度うございます。旧年中は何かとお世話さまになりました。どうぞ今年も相変りませずよろしくお願い申しあげます。

もう幾つ寝たらお正月

お正月には凧あげて

独楽を廻して遊びましょう

と私等の子供のときは歌の通りに凧をあげる広っぱは至る処にありましたし、道路には自転車も滅多に通らず、自動車は無論無かった時ですし十数人が集まって独楽を廻し、自分の廻している独楽を相手の廻っている独楽にぶっつけて倒せば勝ちとなる遊びをよくやりました。源平二組に別れて互いに相手の独楽を全部倒すまで闘うといふ試合もお正月の子供の行事でございました。

今の子供は一寸、可愛想な気がします。十数人そろって遊べる広っぱが見当りません。それでも孫達は「もう幾つ寝たらお正月」と歌っていました。凧をあげてくれとせがまれると、寒さを忘れて、よしよしと喜んで出かけるのですが道路では危なくて凧もあがりかねます。広い刈田の中で思う存分走り廻り、凧が小さく小さく、見えない位にあげた頃が懐かしまれます。それでも今の子供には内では双六遊びや、積木細工、外では両親に連れられて遊園地や公園に行く等お正月を結構楽しんではおりますが——

私は今でもお正月を迎えられたことを喜ぶものです。今年で六五回お正月を迎えたことになります。福山の独楽廻しのお正月、松山のカルタ取り（百人一首）のお正月、満洲の爆竹見物のお正月等アロエ花咲く小豆島のお正月、——過ぎ越したお正月を頭の中に映し出しながら、何も彼も、嬉しい、楽しい思いに浸り切っております。本当に自分は倖だと有難く思います。今年も精進浄行して松山の碁に勝ったお正月、初句会の秀句が出たお正月、越天楽を神気をこめて吹き切ったお正月等々を加えて、何年か先きに頭の中に映し出したいのでございます。

どうぞ皆さん今年は益々お健やかに、お病気の康らぎませるように、今年のご日常が先の日の嬉しい楽しい思い出になられますように——

次号は四月に出したいと思います。随想、趣味、その他俳句、短歌、川柳、等々ご恵贈をお願いいたします。